

市民が育てる
東京・未来

ひろよしあつこ
広吉敦子の

目黒・生活者ネットワーク

おひさまレポート

OHISAMA REPORT 2016. 1. 10 No. 95

発行責任者/広吉敦子 〒152-0003 目黒区碑文谷6-1-19 アネックスST 1階 TEL/FAX 03-3791-8069 <http://meguro.seikatsusha.net>

11月議会報告

〜一般質問〜



地域づくりは

人と人とのつながりで

〜新しい市民参加のカタチを作るために〜
情報通信技術の進歩により、人々はあふれる情報を瞬時に取り入れ、自ら発信するようになりました。課題解決型の市民活動も増え、行政は時代の流れに合わせた市民との協働により「目黒のまちづくり」に取り組んでいく必要があります。そこで、今回の議会質問は、時代の流れを察知した市民参加のあり方と学校と地域を結ぶ「子ども教室」、子育て世代の人生設計をも左右する待機児童対策についてとりあげました。

まずは新人の時から定期的にファシリテーター研修を実施すべきだ！

職員のみならずファシリテーション力や市民活動をサポート、コーディネートする力はこれから一層必要とされます。公園づくりや都市計画、保育所の説明会、まちづくり懇談会など、職員のファシリテーション力次第で集まりは有意義なものとなり、地域課題解決に繋がっていく可能性もあります。また、芽生えてきた活動をうまくサポートすることで、新たな協働の場をコーディネートすることもできます。これからは市民参加を進めるために早い段階での情報開示を行い、市民と協働のまちづくりに真剣に取り組むべきです。

※ファシリテーションとは会議などで参加者の智慧や発想を引き出し、まとめ、発展させ、成果に導いていく手法のこと

子どもの生きる力を育む「子ども教室」を全校に！

文科省による「放課後子ども教室」は、目黒区では、週末や長期の休みなども含めた「子ども教室」として、現在22の小学校のうち13校で実施しています。「子ども教室」の目的はさまざまな経験や体験を通して、子どもの生きる力を育むことです。区は最終的に全ての小学校に広げることが目標としていますが、これを学校と地域との連携を深めるチャンスととらえ、

「子ども教室」のしくみを充実、発展させ、開かれた学校として地域に根付かせていくことが重要だと考えます。

4月入園から途中入園を可能に！

目黒区は「子ども総合計画」に認可保育園の整備を盛り込んでいますが、計画通りに進まず、2015年4月には待機児童数294人と発表しました。今春に予定していた保育園開設も遅れるため、さらに待機児が増える見込みです。目黒区の保育園入園は4月に集中し、年度途中の入園は難しいのが実態です。そのため、新設保育園は年度途中での開園を可能とするよう質したところ、区は4月にこだわらず柔軟な対応を検討することとなり、一歩前進しました。しかし、子育て世代の働き方は多様であるため保育所開設だけでなく、区有施設や空きスペースを活用した子育て支援の拠点を増やし、地域の中で子どもが育つ環境を作りだすことが必要であり、子育てしやすいまちとなるよう取り組んでいきます。

